

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②施設・事業所情報

名称：入道雲	種別：施設入所支援、生活介護、短期入所	
代表者氏名：佐藤 伸	定員（利用人数）： 50名	
所在地：〒253-0008 茅ヶ崎市芹沢786		
TEL：0467-54-5424	ホームページ： <a href="http://www.syonokai.jp">http://www.syonokai.jp</a>	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：1996年5月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人翔の会		
職員数	常勤職員： 30名 非常勤職員 27名	
専門職員	看護師 2名	
	作業療法士 1名	
	管理栄養士 2名	
施設・設備 の概要	個室（50）	浴室2、トイレ13
		デイルーム2（外部3）

③理念・基本方針

◇基本理念

誰もが地域で暮らせるために  
（大切にしたいこと）

1. 一人ひとりをかけがえのない存在として尊重します。
2. 本人を中心として寄り添う支援を行います。

◇基本運営方針

1. 利用者本人を中心とし、本人の意向を尊重した支援を行います。
2. 利用者的人格と性差を尊重した介助を行います。
3. 利用者の権利擁護とサービスの向上を目指して、事故と虐待を防止し、利用者の権利を守ります。
4. ソーシャルインクルージョンの理念に基づき、全ての人が地域の中で互いの生き方を尊重し合い、交じり合って生活ができる共生社会をめざします。その実現のため多職種他機関との連携を大切にします。
5. 職員のキャリアアップに努め、職員研修の充実を図ります。
6. 職員が安心して働き続けられる職場作りをめざします。
7. 適切な財務管理と会計処理システムに努め、信頼性の高い効果的・効率的な経営体制を確立します。
8. サービスの質の向上のため、リスクマネジメントの充実やコンプライアンスの徹底、情報公開による透明性の確保を図ります。

④施設・事業所の特徴的な取組

○利用者の8割は言葉での意思確認が難しいため、写真や絵カードを使用したり、それでもイメージがつかめない方には現物を呈示したりして、利用者個々の特性に合わせた関わりを行っている。使用する絵カードは、利用者と一緒に考えながら作成している。利用者とのコミュニケーションをとり、スタッフ自身も楽しみながら仕事に携わっている。また、3年前より、県の「意思決定支援」のモデル事業に取り組んでいる。

「意思決定支援」の取り組みは、少人数から始め、現在は20名の利用者を対象にして、口頭や写真などを使用して行っている。

○作業療法士を配置し、また同一建物内の水平線に勤務する理学療法士の協力を仰ぎ、希望する利用者に対して機能訓練を行っている。作業療法士が個別のリハビリテーション計画を作成し、プログラムメニューを提供している。利用者の平均年齢が50歳を超えたことから、体力や筋力の低下も考えられるため、生活の中でのリハビリテーションも行っている。下肢の筋力低下防止のため、作業療法士の指示のもと、スタッフ付き添いで小さなバランスボールでの足踏みや、階段の昇降などの訓練を生活の中で行っている。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年6月1日（契約日）～ 2024年2月9日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2010年度）

#### ⑥総評

◇事業所の特色や努力、工夫していること、事業所が課題と考えていること等

○入道雲は福祉総合援助施設「空と海」の2階にあり、重い知的障害や自閉症スペクトラムの利用者50名が、3つのユニットに分かれて生活を送っている。全室個室を提供し、利用者が安心して生活できることを優先し、居室内の配置は利用者自身が決めている。

○利用者の日中活動は大きく5グループに分かれ、ポスティングやアルミはがし、自主製品のあられ作り、洗濯などさまざまあるが、どの活動に参加するかは、利用者本人を選んでもらっている。実際にやってみて楽しいと感じ継続している方もいるが、自分に合わないと感じた方には他の活動を選んでもらっている。利用者本人が自分で考え、選択できるようにしている。

○利用者の人権に対する取り組みとして、言葉遣いについてのグレーゾーンなど、不適切な対応かどうか、スタッフ間で検討する他、他施設の職員のアドバイスも受けている。スタッフは、利用者の行動制限について、常に意識しながら活動している。行動制限しなければ危険を伴う場合も、そのことは利用者の自由の権利を奪うことではないかなど、グループ会議で具体的な行動について話し合いを行っている。その行為自体を問題にするのではなく、背景にある原因を突き止めるようにしている。その方の生き方、感じていることを尊重しながら、日々の支援に携わっている。

○コミュニケーション手段として写真や絵カードを使用している。また、独自の手話を使ってコミュニケーションをとっている利用者もいる。言葉でのコミュニケーションが困難な方が多いため、スタッフは常に利用者とのコミュニケーションについて課題があると考えている。4年前より、自閉症の子どもとのコミュニケーションの研修で学んだ「SCERTSモデル」を、数人の利用者を対象に活用している。困ったときに急に走り出す行動が軽減したり、遊びの中にスタッフが一緒に関わることで大声を出すことが減少したりと、取り組みの効果がでてきていると感じている。

○利用者に関わる時間を多く持ち、利用者とは話す機会をできるだけ作るようにしている。家族に会いたい、墓参りに行きたいなどの相談があった場合は、利用者の意思を尊重し、できるだけ早急に実施できるようにしている。実際に家族に会いに行ったり、墓参りに行って、利用者は満足している。個別支援計画の話をする時などは、落ち着いてゆっくり話ができるよう、施設内の相談室を使って、利用者の話を聞いている。

○利用者に提供する食事は、個々のニーズや希望を大切に提供している。栄養士が献立表を作成し、利用者個々の栄養計画を立てている。ペースト食や刻み食、常食などの食形態は、栄養士や作業療法士、言語聴覚士などが身体の状況に応じて、利用者本人と相談しながら提供している。咀嚼せずすぐに飲み込んでしまう方には小鉢で提

供したり、偏食の方には食べられるものへ代替えしたり、異食のある方には環境の整備をしたりと、個々に応じた対応を支援計画書に記載している。食前と食後に入浴の時間を設け、利用者は好きな時間帯に入浴している。

○利用者が地域の運動会などの行事に参加している。近くの運動公園などを利用して、利用者は身体を動かし楽しんでいる。また、秋祭りなどのイベントを企画し、地域の方々の協力を得て開催している。元花火師のスタッフとともに花火大会を計画したり、夏は盆踊りなどを実施している。後援会の方たちの協力を得て、利用者の着付けを手伝ってもらうなど、地域社会との関係性は深い。今後もさらに社会参加が増えるような支援を考えていきたいと考えている。

#### ⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回、入道雲で、第三者評価を受けさせていただく中で、職員への聞き取りやアンケート・会議などを開催して、出来るだけ多くの立場の職員に関わってもらうことが出来ました。その中で、自分達の施設が、何が出来ていて何が出来ていないか・何を大切にしていきたいのかを改めて確認することが出来ました。そして、取り組んで行かなければならない課題に着目する事ができました。今後、今回の結果を職員で共有して、支援に生かしていきたいと思えます。

#### ⑧第三者評価結果

別紙2のとおり